レッスン：SPA NO.2

テーマ：四面ピラミッド+

SPA/NO”/DOC/PYRN4.KE5./SE./K5

わたしの姉妹・兄弟たち、

スピリット、光、火の子供たち。私たちは常に主、絶対、神の聖性によって抱かれています。

以前のレッスンでピラミッドの様々なタイプについて述べました。四面ピラミッド、三面ピラミッド、五面ピラミッド、六面ピラミッド、七面ピラミッド、八面ピラミッド、そして一面ピラミッド、いわゆる円錐と呼ばれるものなどについて述べてきました。

今晩、私たちはこれら全てのタイプのピラミッドについて話すのではなく、四面ピラミッドに幾分フォーカスしてお話しましょう。過去に述べたように、このピラミッドの各サイドはそれぞれ自然の一つのエレメントを示し、また現在のパーソナリティーを示しています。現在のパーソナリティーを示すピラミッドのサイドはまた、ウリエルを意味します。ウリエルはミカエル、ガブリエル、ラファエルというアークエンジェルのオーダーによって行われる仕事のコーディネーターです。しかし、自然のエレメントは四つであり、もしピラミッドの一つのサイドがウリエルを意味するならどこに四つのエレメントがあるのでしょうか？四つ目のエレメント、それは土ですが、それはピラミッドの底面にあります。

前に述べたとおり、無知の中にいる現在のパーソナリティーは四面ピラミッドの中にさえいません；四面ピラミッドの下の深いところにある墓にいます。無知にある間、現在のパーソナリティーは土、地のエレメントによって囲まれており、そのエレメントにフォーカスし、そのエレメントに魅惑されています。確かに、現在のパーソナリティーがいかなる方向、どこを見ようとも、このエレメントに魅せられています。というのも、現れとしてこのエレメントと結びつき、何であれこのエレメントから来るものと結びついているからです。

以前、**現在のパーソナリティーは無知の中にいる間は存在するために四つのエレメントを使い、表現するために五感を使う、**と述べました。しかし、現れの制約の原因となっているのは、本当にこれらのエレメントと五感なのでしょうか？実際には、そうではありません。

制約の原因は、現在のパーソナリティーが入った意識の限界にあります。そして前に述べたように、意識のセルフ・エピグノシスの様々なレベルがあります。人間はセルフ・エピグノシスの質を伴ったロゴス的現れなのですが、意識が限界のなかに取り込まれた結果として、このセルフ・エピグノシスには限界があります。その結果として、人間は実存の諸世界にいる間、様々なレベルの意識およびセルフ・エピグノシスを表現しています。まず、いわゆる本能的意識のセルフ・エピグノシスがあり、次に潜在意識的意識のセルフ・エピグノシス、そして意識的意識のセルフ・エピグノシス、そして勿論、超意識的意識のセルフ・エピグノシスがあります。自分の墓にいる人間はいわゆる本能的意識のセルフ・エピグノシスを現し、次に潜在意識的意識のセルフ・エピグノシスを現しています。人間はいつ意識的意識のセルフ・エピグノシスを表現するのでしょうか？勿論、無知のなかにいる間はそれを現しません。

「無知のなかにいる間はそれを現わさない」とはどういう意味でしょうか？人間が四面ピラミッドのなかに入るとき、その人は無知から解放されているのでしょうか？ここでもまた答えはノーです。しかし、なぜノーなのでしょう？

**機械的に日常生活を送っている大部分の人々は、五感を通じて自分自身を表現しています**

；これら全ての人々は自分の墓の中にいて、いまだに潜在意識的意識のセルフ・エピグノシスを現しています。人間はゆっくりと、ゆっくりと気づきのレベルに関するワークを通じて地の中から、土の中から出てきて、四面ピラミッドの中に立つのです。これが起きたとき、人間は何を現すでしょうか？

Page2

まず、人間はたとえピラミッドの中に入ることに成功しても、そこで立っているのではなく、地面に横になっています。そして徐々にゆっくりと、適切な助けと自分自身による多くの努力によって立つことができるようになります。その時初めて、その人はいわゆる意識的意識のセルフ・エピグノシスの初めてのフォームを表現し始めるのです。しかし、それは継続的現れとはなりません。なぜなら、いわゆる意識的意識のセルフ・エピグノシスを表現する真のワークはピラミッドの中でスタートし、それは潜在意識的ではなく完全に意識的に生きることへ人間を導きます。

遺跡としての四面ピラミッドはこの地球上の多くの場所にあります。エジプトにもあれば、アメリカ大陸の様々な場所、メキシコなどにもあります。それらは全て四面ピラミッドであるにもかかわらず、完全に同じではありません。四面ピラミッドが本来示すべきものを示すためには、特定の釣り合いがなければならず、それらの釣り合いは海抜と相似しています。海面からどれほどの高さに築かれているか、です。

エジプトのピラミッドを見て見ると、それらのピラミッドは非常に似通っていますがサイズは異なっています。実際には、そうあるべきではありません。それらのサイズは互いにほとんど同じであるべきであり、またピラミッドのなかの釣り合いもほとんど同じであるべきです。なぜなら、それらは死海に関する海面からみて同じ標高に築かれているからです。

私たちが「無知にある間、人間はピラミッドの底の下、一定の深さにいる」と言うとき、それは死海のレベルからみた海抜の高さの間に存在する違いについて述べています。それは地面のなかの現在のパーソナリティーの部屋の本当の深さを計算するためのファクターになっています。いずれにしても、将来私たちが四面ピラミッドを完全に分析するときにそれについて詳しく話しましょう。なぜなら、それは現在のパーソナリティーに深く関係しているからです。真理の探求者の真のワークは四面ピラミッドの中で行われます。

私たちはいかにして四面ピラミッドの中に自分を見出すのでしょうか？

私たちは自分自身の小さなピラミッドを創造します。それは私たちが前に述べたものと同じです。そのワークは、私たちが最終的に適切なサイズの四面ピラミッドのなかにいる自分を見出す助けとなります。

ですから、四面ピラミッドは気づきの上昇に向けて現在のパーソナリティーを助けてくれます。それを達成するために、四面ピラミッドの中でどのようなワークを行うのでしょうか？**現在のパーソナリティーは、まず自分自身の無知の認識に向けてワークをし、次にその主な弱点から自由になるために努力します。**今や、様々な形態の全ての瞑想を四面ピラミッドのなかで行う必要があります。現在のパーソナリティーは様々なアークエンジェルのオーダーからの影響に対して自分自身を開くようにします。特に、様々なエレメントを支配するオーダーからの影響に対して。最終的に現在のパーソナリティーはミカエル、ラファエル、ガブリエルそして勿論ウリエルとコンタクトするようになるでしょう。

四番目のエレメントを支配するアークエンジェルのオーダーについてはどうでしょうか？気づきの上昇に向けてワークするために、私たちは地面にフォーカスして自分自身のイメージを見る必要があるでしょうか？

もはやそれを行うべきではありません。私たちは自分自身の前にフォーカスし、純白の輝きを放つピラミッドのサイドに向かうべきです。実際、**それは鏡です。私たちがその鏡を見るとき、役者としてのパーソナリティーからの干渉がなく、自分自身のイメージが非常に明瞭になります。事実、このワークを通じて、現在のパーソナリティーはそれ自身の無知を認識し、その現れを変え、思考・行動の仕方を変えようとするのです。**その時初めて私たちは様々なアークエンジェルのオーダーに接触して、現在のパーソナリティーを支配、マスターすることに向けて上昇し始め、意識的意識のセルフ・エピグノシスの様々なレベルの様々な階段を昇り始め、最終的にこの梯子を完了するのです。これが達成されると、現在のパーソナリティーは五感による表現を背後にして、五つの超感覚を使って表現するようになります。

Page3

今や私たちは自分自身のイメージにもはや魅惑されなくなった結果、地面の中、土のなかの自分自身のイメージにフォーカスすることを止めます。私たちは自分自身への魅惑から脱しましたが、どこか他のイメージにフォーカスするのでしょうか？答えはノーです。もはやいかなるイメージにもフォーカスすることはないのですが、私たちは気づきを上昇させて現在のパーソナリティーの自己実現に到達するために、現在のパーソナリティーに関するワークをする必要があります。

私たちは蓋然的可能性のサイクルを素質的可能性のサイクルにマッチさせるようにする必要があり、それをしたとき、現在のパーソナリティーの諸体をマスターし、現在のパーソナリティーの自己実現を達成したことを意味します。意識がセルフ・エピグノシスとバランスが取れており、ノエティカル体とサイキカル体のバランスが取れています。これが起きるとき、現在のパーソナリティーは「生」(Life)が提供するものを表現しており、それはほかでもないまさに本質（Nature）であり、また「愛」以外の何ものでもありません。しかし、ひとつ違いがあります。それは現在のパーソナリティーというフィルターを通じた愛です。それは絶対愛ではありませんが、現在のパーソナリティーが転生のサイクルのなかにある間に表現される「愛」です。過去に述べたように、**最初の磔のポジションに達した現在のパーソナリティーは、他のいかなる同胞の人間をも背後に残して存在の諸世界に入るということはありません。転生のサイクル内に留まり、最後の一人がそのポジションに到達できるように助けるのです。ですから、最初にそのポジションに到達する人はまた、そこを渡る最後の人でもあるのです。**

この地球上のいかなる人間もテオーシス（＊数多くの転生を経た後に到達する成長の最終段階。神との再合一）には入っていませんが、自己実現というこのポジションに達した人は数多く存在し、彼らは私たちの間におり、最後の一人の人間がこのポジションに辿り着くのを待っています。**私たちの太陽系、あるいは宇宙における他の諸惑星においては、無数の私たちの兄弟たちがテオーシスに入っています。**これはあらゆる瞬間に起きており、私たちの無数の兄弟たちがテオーシスに入ろうとしており、同時に無数の兄弟たちが初めて無知の中に入ろうとしています。これは永遠に続きます。なぜなら、これは神の黙想の動きだからです。

自己実現に向けたこれらすべてのワークはどこで行われるのでしょうか？

四面ピラミッドの中ですが、同時に他のタイプのピラミッドの中でも行われます。かって述べたように、他の全てのタイプのピラミッドのなかで、五面ピラミッドの中で、一面ピラミッドである円錐のなかで、三面ピラミッドのなかで行われます。そして六面ピラミッドのなかでもある程度まで行われます。しかし、七面ピラミッドおよび八面ピラミッドの中では行われません。その理由は、七面および八面ピラミッドは存在の諸世界の中で表現されるからです。六面ピラミッドもまた存在の諸世界のなかで現されますが、実存の諸世界においてもそれはかなりの程度表現されます。ですから、それは自己実現のレベルに到達した現在のパーソナリティーもそれを使用することができるのです

七面ピラミッドは魂のセルフ・エピグノシスに対してのみ、生それ自身に対してのみです。しかし、生は表現の手段を必要とするのでしょうか？生は生の諸世界の中で、実際に七芒星あるいは七面ピラミッドを必要とするのでしょうか？絶対に必要としません。

それではなぜ、私たちは七面ピラミッドを生それ自体と結びつけるのでしょうか？なぜなら、魂のセルフ・エピグノシスが助けを差し伸べるために実存の諸世界に入るとき、魂のセルフ・エピグノシスとしての生それ自身が、自らを表現する乗り物として七面ピラミッドあるいは七芒星を使うからです。

八芒星はどうでしょうか？かって述べたように、八芒星は聖母、the Widest of Heavens、処女マリアに属し、創造界における他のいかなる現れもこの星を使うことはできません。魂のセルフ・エピグノシスあるいは汎宇宙的キリストロゴスでさえ使うことはできません。この星は法則にのみ属し、それを通じて他の全ての表現が現れます。たとえ絶対存在の特質としての現れでさえ、汎宇宙的キリストロゴスおよび聖霊として創造の諸世界のなかで現れるためには、ここを通過する必要があるのです；ですから、八芒星は諸宇宙を胸に抱く大いなる母を示しています。

Page4

絶対存在の本質の中の一つの質としての聖母は、この八芒星あるいは八面ピラミッドを必要とするのでしょうか？実際には必要ありませんが、しかしまたパーソナリティーとしての処女マリアもいます。そして、実存の諸世界で表現するために、パーソナリティーとして八芒星および八面ピラミッドを使用することもあります。

前も述べたように、探求者として私たちは四面ピラミッドの中でワークする間にも、他の全てのタイプのピラミッドでワークすることもあります。というのも、四面ピラミッドでワークしている間、私たちは同時に現在のパーソナリティーの他の全てのタイプのピラミッドの中にもいるからです。

そうです、その仕事とは四面ピラミッドの頂上に立つことであり、私たちがそれをするとき、四面ピラミッドを完成させたことを意味します。なぜなら、このピラミッドは頂部を完成させるために私たちのヒポスタシスがその頂上に立つまでは、完成しないからです；それは現在のパーソナリティーが現在のパーソナリティーの自己実現に到達したことを意味します。

勿論、今晩のこの説明は後に続くレッスンで私たちが行おうとすることのほんの始まりにすぎません。私たちは理論よりむしろ、もっと実際的なワークへと入っていきます。一歩一歩、私たちは墓、あるいは現在のパーソナリティーが今この瞬間にいる四つの壁と屋根に囲まれた部屋から始めましょう。勿論、今私たちがその上に立っている、あるいはその上に横になっているもの（＊地面）にフォーカスすることはしません。私たちは四つの壁と屋根にフォーカスします。私たちはエクササイズをしますが、同時に真理の探求者はエンドスコピシス、自己省察、自己分析、潜在意識へのサジェスチョン（＊示唆、暗示）、サイコノエティカルなエクササイズ、そして与えるというエクササイズを続ける必要があります。

これら全てのワークは同時に行う必要があり、探求者は忍耐強くあり、また非常に真剣で正直であらねばならず、さらに自分で取るものは自分だけのものとする必要があります。

**質問と説明：**

質問：円錐および五面ピラミッドについてもう少し話していただけますか？

Ｋ：わかりました、五面ピラミッドから始めましょう。五面ピラミッドは五つの超感覚の現われを意味します。

これはいつ起こるのでしょうか？人間は無知にある間でも潜在意識的に五つの超感覚を使用していますが、意識的にはまだ使用していません。**いわゆるサイコノエティカル体の現れは五つの超感覚の使用によるものです。**パーソナリティーが考えたり、さらに空想しているときには五つの超感覚を使っています。現在のパーソナリティーがいわゆるサイコノエティカル界で意識的に表現するとき、その時にはパーソナリティーは五つの超感覚、五芒星あるいは五面ピラミッドを使用しています。

**五面ピラミッドをマスターして五芒星を使うということは、パーソナリティーが肉体とサイコノエティカル体に橋をかけ、その結果肉体のなかで表現しているときでも五つの超感覚を使うことができることを意味します。**

三面ピラミッドは何を意味するのでしょうか？それは絶対存在の特質を意味しますが、実際には各サイドは、素質的可能性のサイクル内の質を伴った現在のパーソナリティーの現れを示しています。三面ピラミッドの一つのサイドは現在のパーソナリティー、もう一つのサイドは絶対愛、そして三つ目のサイドは絶対パワーです。ですから、現在のパーソナリティーがそれらの特質を表現しているのですが、また三つのサイドが一緒になって絶対英知を提供しています。それはこのピラミッドをマスターすることによって与えられる英知です。そうです、これは六面ピラミッド以前にマスターすべき最後のピラミッドです。

Page5

もしこれが最後のピラミッドなら、一面ピラミッド、円錐はどうなるのでしょうか？一面ピラミッドをマスターするということは、現在のパーソナリティーが超意識的意識のセルフ・エピグノシスと呼ばれる意識レベルに到達することを意味します。実際、このピラミッドをマスターすることは三面ピラミッドのマスターと一致するのですが、しかし勉強の目的のためにそれを三面ピラミッドの一歩手前とみなしているのです。しかし実際には、一面ピラミッドのマスターと三面ピラミッドのマスターは同時なのです。なぜなら、**一面ピラミッドは意識をあらゆるところに広げる能力を意味するからです。もし私たちが他の全てのタイプのピラミッドを回転させると、一面ピラミッドが形成されます。**

前に話しましたが、過去の人間、特にアメリカ・インディアンは一面ピラミッドを形成するために、空中浮揚を通じて自分たちの体を回転させました。アメリカ・インディアンたちはテントのなかで結跏趺坐で座って瞑想し、テクニカル的手段によって一面ピラミッドを形成する能力を得たのです；結跏趺坐で座っていながら自分たちの体を回転させることによって一面ピラミッドを形成していたのです。彼らが実際に求めていたのは意識を伸ばし広げることでしたが、実際に到達したのはイリュージョンのなかに入り、それらのイリュージョンが現在のパーソナリティーにある種の能力を提供していたのです；彼らは大部分、パワーと能力を経験していたのです。いずれにしても、真剣な真理の探求者は、このタイプのピラミッドを過去に使われたのと同じ方法で使用することはないでしょう。

私たちはこれまで四面ピラミッド、三面ピラミッド、五面ピラミッド、一面ピラミッドについて説明してきました。六面ピラミッドについてはどうなのでしょうか？勿論、私たちは過去においてこのピラミッドについて何回も説明してきました。六面ピラミッドはキリストロゴスに属します。しかし、どの現れにおいてでしょうか？絶対存在の本質内の主な特質の一つとしてのキリストロゴスがあり、それは絶対存在の一番上の三角形の中にあります。さらにまた、絶対存在のロゴス的本質としてのキリストロゴスがあり、それはパワーを有し、それゆえにキリストロゴスが一番上の三角形から創造界に下降し、自分自身を「道であり、真理であり、命である」と呼んだのです。汎宇宙的キリストロゴスとして、そしてイエスキリスト・ロゴスとして、創造界にはキリストロゴスの異なった現れがあります。

六芒星あるいは六面ピラミッドはどの現れに属するのでしょうか？実際それは重要な問題でしょうか？いいえ、それは重要なことではありません。というのも、生それ自身のスパークは創造界における生のあらゆる現れのなかにあるからです。

六芒星は二つの三角形の結果であり、一つは下向きでキリストロゴスの創造界への下降を示しています。、もう一つは上向きの三角形で、上昇して生それ自身の特質を完全に表現しているポジションにいる人間を示しています。

前にも述べましたが、人間は自然の四つのエレメントをマスターすることによって、実存の諸世界にいる間でもこの星を使うことができます。ですから人間は過去における四つのエレメントの使い方を背後に置いて行くことになりますす。上向きの三角形の底辺に十字架が立っていますが、それはまた現在のパーソナリティーが四つのエレメントの使用を通じて、そして一般にそれらの諸世界の中でのマインドの使用を通じて、異なった形態の現れを完全にマスターするレベルに到達したことを意味します。そうです、このレベルの現れはキリスト意識と呼ばれます；あなたは生の特質を表現しているのです、なぜならキリストロゴスは生だからです。ですから、転生のサイクルの中で人間が表現することのできる六芒星があります。

人間が実存の諸世界にいる間にこの六芒星を使うということは、その現在のパーソナリティーが実際にキリスト意識に到達したことを示すのでしょうか？違います。なぜなら、**そのレベルに到達するということは、現在のパーソナリティーがもはや現在のパーソナリティーではなくなり、永遠のパーソナリティーに入ったことを示すからです。そして、それ以前の（＊過去生における）全てのパーソナリティーを転生させたスパークは魂のセルフ・エピグノシスへ戻ったのです。**生それ自体とひとつである、と魂のセルフ・エピグノシスが言うのはこのポイントにおいてです。なぜなら、今やその魂は自己実現した魂だからです。しかし勿論、これは地球上の他の全ての現在のパーソナリティーが同じそのレベルに到達するときにのみ、現在のパーソナリティーに起こることです。

それなら、なぜ転生のサイクルにある間、その乗り物が現在のパーソナリティーに与えられるのでしょうか？その理由は、その現在のパーソナリティーは生である存在の世界に入ることのできるレベルに到達したのですが、そうしないからです。その人は自分の諸体をマスターしているのですが、同胞の人間を助けるために転生のサイクルに留まるのです。それゆえ、実存の諸世界においても使用できるように、六芒星がその現在のパーソナリティーに与えれらるのです。

ですから、いま私たちは現在のパーソナリティーが使用するあらゆるタイプのピラミッド、星についてカバーしました。七面ピラミッドについては触れませんので、六までとします。

質問：あなたは地（the earth）についての探求と言いますが、地面(the ground)についての探求とは言いませんね。それはどういう意味ですか？

Ｋ：私たちは地面(the ground)にフォーカスすることはしません。もし地面にフォーカスすれば、地面のエレメンタルと一緒の自分自身に同調することになります。地面のエレメンタルはサミュエルに関係するエレメンタルです；それらのエレメンタルはルシファー、つまり原因・結果の法則を支配するアークエンジェルによって創造され、非常にバイブレーションの低いエレメンタルです；私たちが地面に集中すると、そのような低いバイブレーションのエレメンタルを活性化させ、同調することになります。それらのエレメンタルは人間が非常に低いバイブレーションを現している時に創造されたものです。とにかく、私たちはそれらを分析することはしません。それは私たちの仕事ではなく、対立するもの(opposites)の仕事です。

将来、探求者の準備ができたとき、対立するもの(opposites)がしていることを身近に見せて、彼らがしていることに対面できるようにしましょう。しかし、準備ができる前はだめです；なぜなら、あなた方がパワーと能力に魅惑され、またそれらのパワーと能力が現在のパーソナリティーに提供するものに魅惑される危険性があるからです。

ですから、私たちのワークは地面から上、特に地面からある程度離れているところ、およびそれより上に集中します。私たちの体において地面からの最初の意識のセンターは太陽神経叢です；ですから太陽神経叢およびそれより上です。

実際、真理の探求者は現在のパーソナリティーを構成するセンターのみにワークします。それらは太陽神経叢にある意識のセンター、意識および同時にセルフ・エピグノシスのセンターでもあるハートのセンター、そしてセルフ・エピグノシス、純粋なるセルフ・エピグノシスのセンターである頭のセンターです。これら三つのセンターは現在のパーソナリティーの意識およびセルフ・エピグノシスのセンターです。

意識およびセルフ・エピグノシスのこれら三つのセンターは、真理の探求者にとって気づきの上昇のための鍵となるセンターです。

私たちは常に主、絶対、神の聖性に抱かれています。

EREVNA/PSA2/EN/THE FOUR SIDED PYRAMID +